

問1 明治初期、徴兵令の実施や秩禄処分、廃刀令などによって特権を失った不平士族たちは、各地で政府に対する反乱を起こしました。1877年に鹿児島県で西郷隆盛を指導者として起こり、政府軍によって鎮圧された最大かつ最後の武力反乱を何といいいますか。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 西南戦争 2. 戊辰戦争 3. 禁門の変 4. 島原・天草一揆

問2 明治6年の政変において、西郷隆盛や板垣退助らが主張した征韓論に対し、欧米視察から帰国した大久保利通らが強く反対した。その際の彼らの主張内容として最も適切なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）

1. 武力を用いても朝鮮を開国させ、国威を示すべきである 2. 朝鮮との国交よりも、清との軍事同盟の締結を急ぐべきである 3. 対外戦争を行うよりも、国内の産業や制度を整備して国力を充実させるべきである 4. 鎖国政策に戻り、外国との関わりを絶つことで国内の安定を図るべきである

問3 1871年7月に記されたお雇い外国人の日記には、政府が藩を廃止し、全国を県に分割するという非常に大胆な決断を下したことへの驚きが記されています。明治政府がこの「廃藩置県」を断行した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 島根公立入試 類似）

1. 軍事力と徴税権を中央政府に集約し、国家の基礎を固めるため 2. 旧藩主の不満を解消するために、彼らに以前よりも強い自治権を与えるため 3. 全国の土地を農民に無償で分け与え、平等な社会を実現するため 4. 藩ごとの独自の通貨を奨励し、地域経済を活性化させるため

問4 明治政府が地租改正において、納税の方法を従来の「米による物納」から「現金による金納」へと改めた主な理由として最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 豊作や不作、あるいは米価の変動に左右されず、政府が安定した税収を確保できるようにするため。 2. 農村での貨幣経済の普及を抑制し、農民が自給自足の生活を維持できるようにするため。 3. 政府が米を直接管理することで、海外への輸出を独占し貿易赤字を解消するため。 4. 地主の権限を弱め、すべての農民に平等な納税の義務を課すことで江戸時代の身分制を完全に打破するため。

問5 明治政府が富岡製糸場などの官営模範工場を設立した目的として、当時の状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）

1. 西洋の優れた機械や技術を日本国内に紹介し、民間産業の近代化を促すため 2. 農村の余剰労働力を吸収し、江戸時代から続く伝統的な手工業を保護するため 3. 絹製品の輸出を禁止し、国内の軍服の材料として絹糸を独占的に確保するため 4. 地租改正による税収不足を補うため、政府が直接利益を上げて国家予算に充てるため

問6 1871年に行われた廃藩置県により、現在の和歌山県域では和歌山県、田辺県、新宮県の三つの県が置かれたのち、和歌山県として統合されました。明治政府がこのような地方の権限を中央に集中させ、国家の統一と統治能力の強化を目指した政治体制を何と呼びますか。（2025年 和歌山公立入試 類似）

1. 中央集権 2. 地方分権 3. 藩閥政治 4. 大正デモクラシー

問7 明治政府が断行した士族の特権廃止は、当時の社会に大きな混乱を招きました。これらの政策がもたらした歴史的な影響と背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 特権を奪われ生活に困窮した士族たちの不満は、各地での武装蜂起を招き、最大規模の反乱である西南戦争へとつながった。 2. 士族は自発的に帯刀を辞め、家禄の返上を申し出たため、新政府は一切の軍事的混乱を経験することなく近代化を達成した。 3. 政府は士族の不満を解消するために、徴兵令を一時中断し、旧来の武士団をそのまま近代的陸軍として組織し直した。 4. 家禄の廃止によって浮いた予算は、すべて江戸時代の借金返済に充てられ、産業の育成や軍備の拡張に使われることはなかった。

問8 明治政府の成立過程において、1867年末に出された「王政復古の大号令」の目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 徳川慶喜に政権を返上させることで、内乱を避けつつ平和的に政治体制を改めること 2. 幕府を完全に廃止し、天皇の下に新しい役職を設けて権力を一本化すること 3. 新政府が欧米列強と対等に渡り合うための、近代的な議会開設を約束すること 4. 全国の藩主の領地と領民を天皇に返還させ、中央集権体制の基礎を固めること

答え合わせ・解説

問1	答え 1 西南戦争	明治政府の近代化政策によって、それまで特権階級であった士族は、帯刀の禁止や家禄（給料）の打ち切りといった厳しい状況に追い込まれました。これに不満を抱いた不平士族たちは各地で反乱を起こしましたが、1877年の西南戦争が政府軍に敗北したことで、武力によって政府を打倒することは不可能であると悟り、その後の運動は自由民権運動などの言論による政治闘争へと移り変わっていきました。
問2	答え 3 対外戦争を行うよりも、国内の産業や制度を整備して国力を充実させるべきである	大久保利通や岩倉具視らは、岩倉使節団として欧米諸国を視察し、その圧倒的な国力を目の当たりにしたため、対外的な武力行使よりも、まずは国内の政治・経済・教育などを整備し、国力を充実させること（内治）を最優先すべきだと考えた。
問3	答え 1 軍事力と徴税権を中央政府に集約し、国家の基礎を固めるため	当時の明治政府は、地方の藩が独自の軍事力や徴税権を持ったままでは、近代的な改革を進めることが困難であると考えていました。旧藩主（知藩事）を解任して東京に住ませ、政府が直接地方を管理することで、安定した税収の確保と強力な軍事力の形成を目指しました。これは当時の外国人も驚くほどの社会構造の根本的な変革でした。
問4	答え 1 豊作や不作、あるいは米価の変動に左右されず、政府が安定した税収を確保できるようにするため。	それまでの収穫高に応じた米による納税では、天候による不作や、市場における米の価格変動によって、政府の毎年の収入が不安定になるという欠点がありました。土地の価格（地価）を基準に固定された金額を現金で納めさせることで、政府は景気や天候に左右されない安定した財政基盤を確立し、近代化政策を進めるための資金を得ようとしてきました。
問5	答え 1 西洋の優れた機械や技術を日本国内に紹介し、民間産業の近代化を促すため	当時の日本にとって、主要な輸出製品であった生糸の品質向上と増産は、外貨を獲得するために非常に重要でした。政府はフランスの技術を取り入れた富岡製糸場を建設し、そこで最新の技術を習得した工女たちが全国各地の製糸場へ戻って技術を伝播させることで、日本全体の産業水準を引き上げようとしてきました。
問6	答え 1 中央集権	廃藩置県は、江戸時代から続いた藩を廃止して全国を政府の直接統治下に置くための改革でした。中央から府知事や県令を派遣することで、軍事や税金の管理権限を中央政府に一本化し、近代国家としての基盤を固める狙いがありました。
問7	答え 1 特権を奪われ生活に困窮した士族たちの不満は、各地での武装蜂起を招き、最大規模の反乱である西南戦争へとつながった。	士族の特権を奪う一連の政策は、彼らのプライドと生活手段を奪うものでした。この不満が爆発し、佐賀の乱、神風連の乱、萩の乱といった反乱が相次ぎ、1877年には西郷隆盛を指導者とする西南戦争が勃発しました。この敗北によって、武力による政府批判は終焉を迎え、以後は言論による自由民権運動へと変化していきました。
問8	答え 2 幕府を完全に廃止し、天皇の下に新しい役職を設けて権力を一本化すること	大政奉還だけでは徳川家の政治的影響力が残る可能性があったため、倒幕派は天皇の名を借りてこの号令を発し、幕府という組織そのものを消滅させました。これにより、徳川家を排除した形での新政府樹立が宣言されました。選択肢にある領地・領民の返還は「版籍奉還」、藩の廃止は「廃藩置県」の説明であり、この号令の段階ではまだ行われていません。